

神戸市シルバーカレッジ

同窓会会報



23号

2022年9月



前田 潔 学長



桂文枝師匠の揮毫



清水 勇夫 会長

神戸市シルバーカレッジ
〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1-1 6
URL <http://kobe-sc.org/>

「会報 編集・発行」KSC同窓会編集委員
(お問い合わせ) 同窓会ホームページ
URL <http://kscalumni.yokochou.com/>



神戸新開地「喜楽館」体験ツアーの開催

(日 時) 令和4年9月26日(月)
11:30~16:20
(場 所) 神戸新開地「喜楽館」
(出席者) 101名



秋晴れで、しかし残暑の厳しさを感じさせるこの日、神戸新開地「喜楽館」で、同窓会の秋の行事として、落語の体験ツアーが開催されました。

司会進行は、国際24期の木村俊子さんです。はじめに、清水勇夫同窓会会長より「コロナ禍では、なかなか笑える機会が少なかったと思います。今日は思いっきり笑っていただき、楽しんで頂ければと思います。この企画を立てました。同窓会では、今後とも皆様に役立つ企画を立てていきたいと思っていますので、楽しみにしておいて下さい。」との挨拶がありました。



司会の木村俊子さん

また、前田潔学長も落語に関心があり、今日出席されたので同窓会の皆様に挨拶されました。「今年の春から学長を務めております前田です。専門は認知症予防で、認知症の予防は外に出て行き人と話す事、また笑うことも大切です。今日この企画のお世話を下さった、同窓会役員の皆様は大変だったと思います。お礼を申し上げます。人のお世話をすることは、認知症予防になります。そして皆さん、今日の落語を大いに楽しんで下さい。」との事でした。

認知症予防のためにも「再び学んで他のために」を実践していきましょう。

次に、いよいよ体験ツアーの始まりです。喜楽館館長補佐「桂三ノ助」さんの喜楽館や落語に使われる道具についてのお話がありました。

始めに、喜楽館の誕生秘話について、大阪天満の繁昌亭だけでは、大阪の落語家(約300名)が出演するには足りない。神戸辺りで良いところはないものかと、桂文枝さんが新聞記事に載せたこと、新開地の商店主さんが名乗りを上げられたと言う事でした。

次に、一番太鼓と言って、開場を知らせる太鼓を喜楽館の入り口で(どンドン、どんと来い、//~)と叩きます。何事にも験(げん)を担ぐのがこの業界です。

また、寄席の舞台を高座と言います。落語家が敷く座布団は、三辺には縫い目がありますが、縫い目のない方、すなわち切れ目のない方をお客さんに向けて座ります。これは、お客さんとの切れ目をなくすという事ですね。そして、座布団にも10種類ほどの色があり、落語家の着物の色に合わせて座布団の色も変えています。

最後に、文枝師匠の書かれた「喜」の文字についてですが、よく見ると人が笑っているように見えますでしょう。また、横棒が右に上がっていますね。これも右肩上がりという意味しています。

落語体験の話は以上です。その後記念写真に収まり、喜楽館の二階へ上がり、各部屋を見学しました。



前田学長、桂三ノ助さんと共に

昼食は、皆さんそれぞれ近くのお店に行き、ツアー券を見せれば割引があります。

午後1時30分になると、商店街の通りを1番太鼓が鳴り響き、皆さんが太鼓の

周りに集まって、三ノ助さんが言っていた打ち方を興味深く聞かれています。

13時45分、開口0番と言って、新人落語家、桂健枝郎さんの登場です。前半の中ト리는桂文福さんで、圧巻の演技で会場は大盛り上がりでした。

休憩を挟んで、後半の大ト리는、桂阿か枝さんです。皆さん腹の底から笑い、大いに楽しまれました。本当に、認知症の予防に効きました。

(広報担当 健福19期 中部周二)



花時計賞の受賞、おめでとうございます。

岩波義孝(生環21期)

この度、久元神戸市長より「花時計賞」を戴きました。この賞は、日常生活における身近な善行、社会奉仕、



福祉活動などを行った神戸市民に授与するもので、今回の受賞理由は、地域における小・中学校の授業等支援、住民を集めてのイベント実施、公園・道路の清掃、シルバーカレッジのクラブ活動で覚えたマジック演技などのボランティア活動によるものです。

ただ表彰式はコロナ感染の影響で中止になり、塩屋地域福祉センターにて、市議員の川内清尚様より表彰状を戴きました。

これは私にとって大変名誉なことで、シルバーカレッジのモットー「再び学んで他のために」の精神が身についたお陰と、実感しております。この受賞を励みに、今後とも微力ながらボランティア活動を行うつもりですので、よろしく願い致します。